

仕合わせの和

第170号
H. 28. 5. 1
(毎月1日発行)

お講について

住職 谷川寛俊

「今月のお講当番は何班ですか？」という電話を度々頂戴しますが、この「お講」というのは一体どういう意味なのでしょう？

広辞苑によると、①仏・菩薩・祖師などの徳を讃嘆する法会(ほうえ)。②神仏を祀り、または参詣するために組織する団体。③何人が集まって、お経の講義をする会。二十三夜講・伊勢講・稲荷講・大師講など」と書いてあります。

つまりお釈迦様や日蓮聖人様の縁日に当たる日を選び、月に一度お寺に集まってお参りをし、勉強する事だったのです。そして、その月の当番に当たっている人達が、お互いに持ち寄った品々で昼食を準備し、仏様や、お参りされた方々にお給仕をする事で、自らの信仰を高め、徳を養う事が出来たのです。

更にもっと昔は、一週間ほど前から集まっては、本堂の掃除に始まり、

境内掃除、仏具や道具などを磨き上げるなど、お互いの心の垢(あか)を洗い流せる絶好の機会と捉えて、嬉々としてお講当番の責務を全うされるために参詣されたものでした。

時代は少子高齢化へと移り変わり、それに伴い参詣者も減少し、また当番に当たった檀信徒も多忙になり、徐々に限られた人達が集まるようになっていきました。伝統を受け継がれることもなく、また受け継ぐ相手もおらず…。おまけに現在では、6, 7, 8, 12月の行事は午後からとなり、一年に一回お休みに当たる当番が出てくるという状況です。このままでは、日本が誇った古き良き時代の伝統文化が失われるのではないかと、心配しております。従来のように、信仰を抛り所とされてきたお寺のあり方も大きく変化してきました。

今こそ、各寺院の住職方の手腕が問われている様に思われ、身が引き締まる思いであります。

昔からの良き伝統を残しつつ、時代にマッチした布教方法が出来るか、そして大切な信仰を継承し、いかに子孫

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

に植え付けていけば良いか、真剣に考えなければならぬ時代と言えます。仏教に説かれる「善因悪果」です。「お講」での功德は必ずや、善き結果へと導かれる事と存じます。檀信徒の皆様方におかれましては、公私ともに日々お忙しくなされておられることは重々承知致しておりますが、その上で、「お講」の意義をご理解頂き、今後一層のご支援とご協力の程をお願い申し上げます。

《平成二十八年度のお講行事一覧》

- ・ 一月十三日 (初お講)
- ・ 二月十五日 (釈尊涅槃会)
- ・ 三月二十一日 (春季彼岸会)
- ・ 四月八日 (釈尊降誕会花祭り)
- ・ 五月八日 (永代祠堂法要)
- ・ 九月二十二日 (秋季彼岸会)
- ・ 十一月三日 (日蓮聖人御入滅法要
お会式)

